

その他施策の 取り組みの概要

幹線道路NW整備：2環状7放射,ハシゴ道路等幹線道路網の整備－施策No.1

■南北を走る強固な【3本の柱】

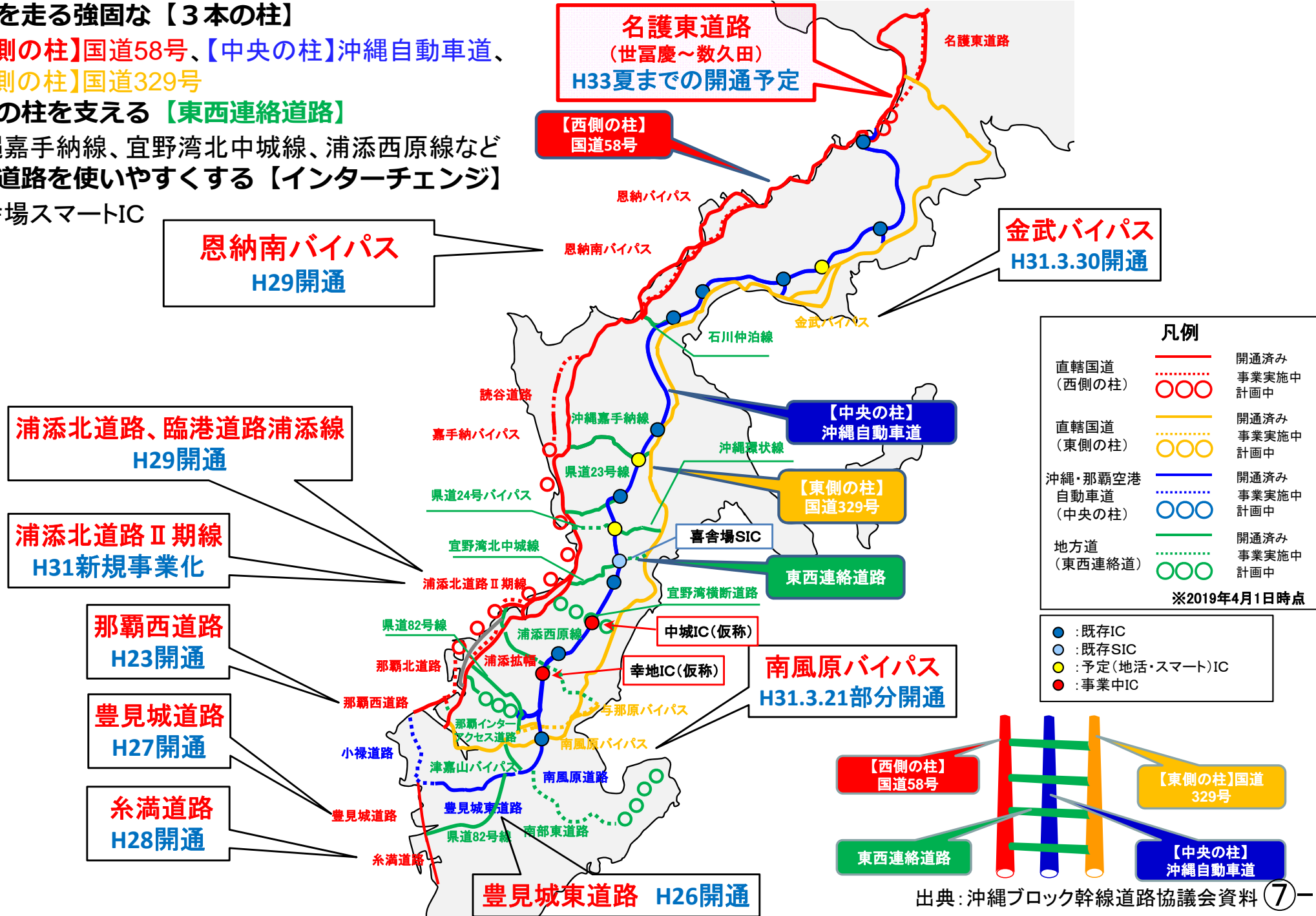
【西側の柱】国道58号、【中央の柱】沖縄自動車道、
【東側の柱】国道329号

■3本の柱を支える【東西連絡道路】

沖縄嘉手納線、宜野湾北中城線、浦添西原線など

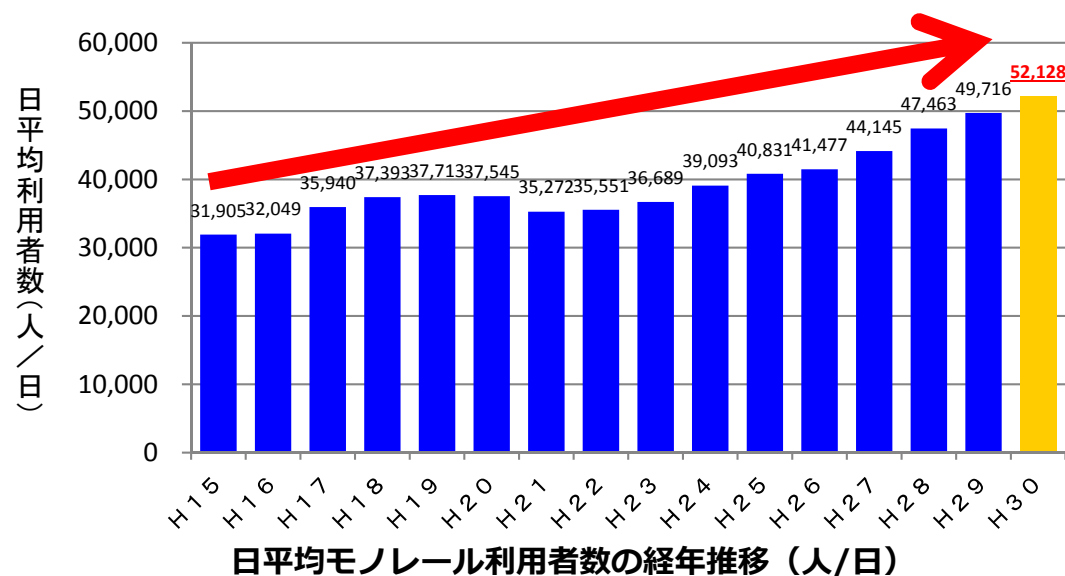
■高速道路を使いやすくする【インターチェンジ】

喜舎場スマートIC



- 沖縄都市モノレールは、観光客の増加に伴い利用者也増加。平成30年度の日平均乗客数は約5.2万人/日（H31年2月末時点）
- 増え続ける利用者に対応するため、3両編成の車両導入に向け取り組みを加速
- 公共交通の利用促進に向け、全国共通ICカードの導入による利便性向上の取り組みを実施

■ 利用者数増加に伴うモノレール車両数増加



出典: 沖縄振興公共投資交付金 関連事業概要書

車両製造

3両編成を、合わせて9編成増備することにより、輸送力増強を行い、混雑解消を図る。

■ 沖縄都市モノレールにおける Suica利用

令和2年春から沖縄都市モノレールにてSuicaの利用が可能

令和元年5月24日

沖縄都市モノレール株式会社

「Suica」サービスを開始します

沖縄都市モノレール株式会社では、沖縄都市モノレール線をご利用されるお客さまの利便性向上を目的に、交通系ICカード「Suica」の導入について東日本旅客鉄道株式会社と協議を進めてまいりました。

このたび、令和2年春から「Suica」の沖縄都市モノレール線における利用開始が決定したためお知らせいたします。

1. 沖縄都市モノレール線において利用可能とする交通系ICカード
「Suica」

※「Suica」と相互利用する以下の交通系ICカードもご利用が可能です。

【使用可能な交通系ICカード】

Kitaca、PASMO、manaca、TOICA、PiTaPa、ICOCA、はやかけん、nimoca、SUGOCA

2. 「Suica」の利用を開始する路線
沖縄都市モノレール線全線

3. サービス開始時期（予定）
令和2年 春

サービスの開始日や具体的内容については、決まり次第、お知らせいたします。

- 昨年度の社会実験を踏まえて、今後は標識への英語表記や滑り止め舗装等の対策を促進。
- その他の急挙動多発箇所の要因分析と対策の体系化について検討を実施する。

過年度の取組

ETC2.0のプロブデータを用いた外国人レンタカー対策

- ・ETC2.0プロブデータを用いて、外国人レンタカーの急挙動が多い交差点を特定。
- ・簡易看板による対策を実施。



・地点1(古宇利島からの流入交差点)ではST英語表記の看板を設置

・具志堅西交差点では美ら海水族館の案内を実施。

STOP看板
(交差点手前)

SLOW看板
(交差点上流170m)

案内看板
(交差点手前)



ピンポイント対策の効果検証

恒久的な対策の効果検証

昨年度の社会実験の結果を踏まえて実施予定の恒久的な対策について、外国人レンタカープロブ等のビッグデータを活用して効果を検証



地点1交差点の恒久対策イメージ

社会実験実施箇所以外の事故危険箇所を対象に急挙動の発生要因を分析し、道路構造、交通状況等の観点から同様な対策が有効な箇所への対策導入を検討

外国人特有の事故危険箇所の体系的整理

急挙動多発箇所の要因分析

将来的に沖縄県全域、その他地域において統一的な方針のもと対策を推進できるよう、外国人レンタカープロブ/ETC2.0プロブ(沖縄県民)の急挙動発生箇所を道路構造や交通状況等に応じて体系的に整理し、外国人特有の危険区間と道路交通環境の関係を明らかにする

道路交通環境

想定される道路構造

例) 左折フリー構造



宜野湾市伊佐

レンタカー利用者の快適で円滑な観光周遊の促進

- 本島北部・東海岸地域における観光周遊を促す仕組みについて検討行う。
- 観光客の立ち寄りが多い美ら海水族館までの所要時間予測を実施。

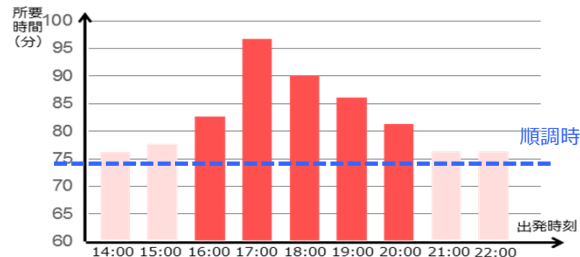
所要時間モデルの構築・検証

【インプット】

- ・ 交通状況（トラカン、CCTV）
- ・ 天気予報
- ・ イベントカレンダー
- ・ 美ら海水族館（本部半島）の入込数 等

【アウトプット】

本部～那覇間の当日の所要時間予報



お得な観光情報・周遊促進の仕組み構築

飲食店、観光施設等のイベント・特売情報等の収集



道の駅や観光施設と連携した割引情報の提供やスタッフ・ラリー等のイベント開催など、北部・東海岸の周遊を促進するインセンティブ付与の仕組みの検討・構築

割引券



情報提供システムの構築

【主要観光施設での情報発信:旅ナカ】

美ら海水族館や道の駅などの主要な観光施設のデジタルサイネージで、**当日のイベントや所要時間予測**を提供し、北部東海岸の周遊を促進



【HP・SNSでの情報発信:旅マエ/旅ナカ】

観光協会や民間事業者等と連携した幅広い情報発信で、出発前(計画段階)に北部東海岸への周遊を促進

【観光情報アプリとの連携:旅マエ/旅ナカ】

地元の携帯通信事業者(沖縄セルラー)が提供する**観光情報アプリ"沖縄CLIP"**と連携して、現在位置や属性に応じたおすすめ観光情報を提供
※スマホのGPSデータを活用した周遊実態把握



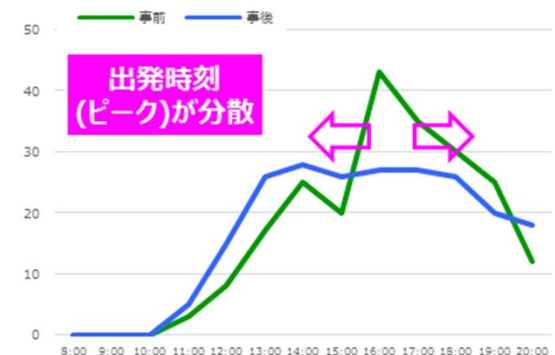
周遊状況の把握(効果検証)

ETC2.0、Wifi、観光アプリプローブ、OTSレンタカープローブなどのビッグデータを活用した周遊状況等の把握・評価

【周遊経路・立寄り施設の変化】



【出発時刻・到着時刻の分散状況】



- 国内外の観光客を対象とした多言語バスマップを作成し、那覇空港や那覇BTで配布、効果検証調査を実施
- 北部地域に交通・観光周遊拠点を創出し、那覇空港等からの観光客の移動手段の多様化を図り、公共交通利用促進及び観光客の移動の円滑化の実装化を目指す。

■多言語バス情報発信の実証実験

《表 面》

《裏 面》

掲載観光地とバス路線ルート

宿泊地までの帰り方

表紙



【実証実験結果】

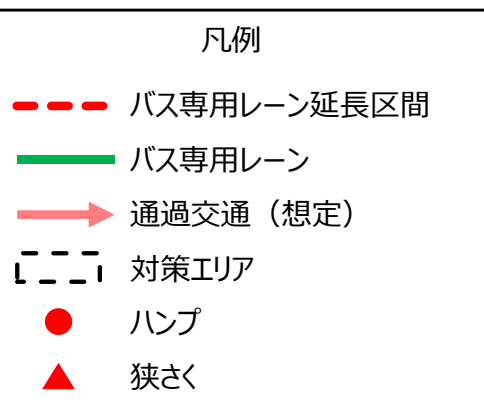
- ・国内外モニターに対し効果検証を実施
 - ・（日本人5名、中国人3名、台湾人3名、米国人2名）
 - ・実際に那覇空港から複数の目的地に訪れ、那覇バスターミナルまで周遊
 - ・モニター全員が計画通りに周遊し、一定の利便性、適切性を確認
- ＜モニター参加者からの声＞
- ⇒ 目的地までの行き方がわかり易い
 - ⇒ ネットに繋がりにくい外国人には便利

■観光客移動手段の多様化実証実験

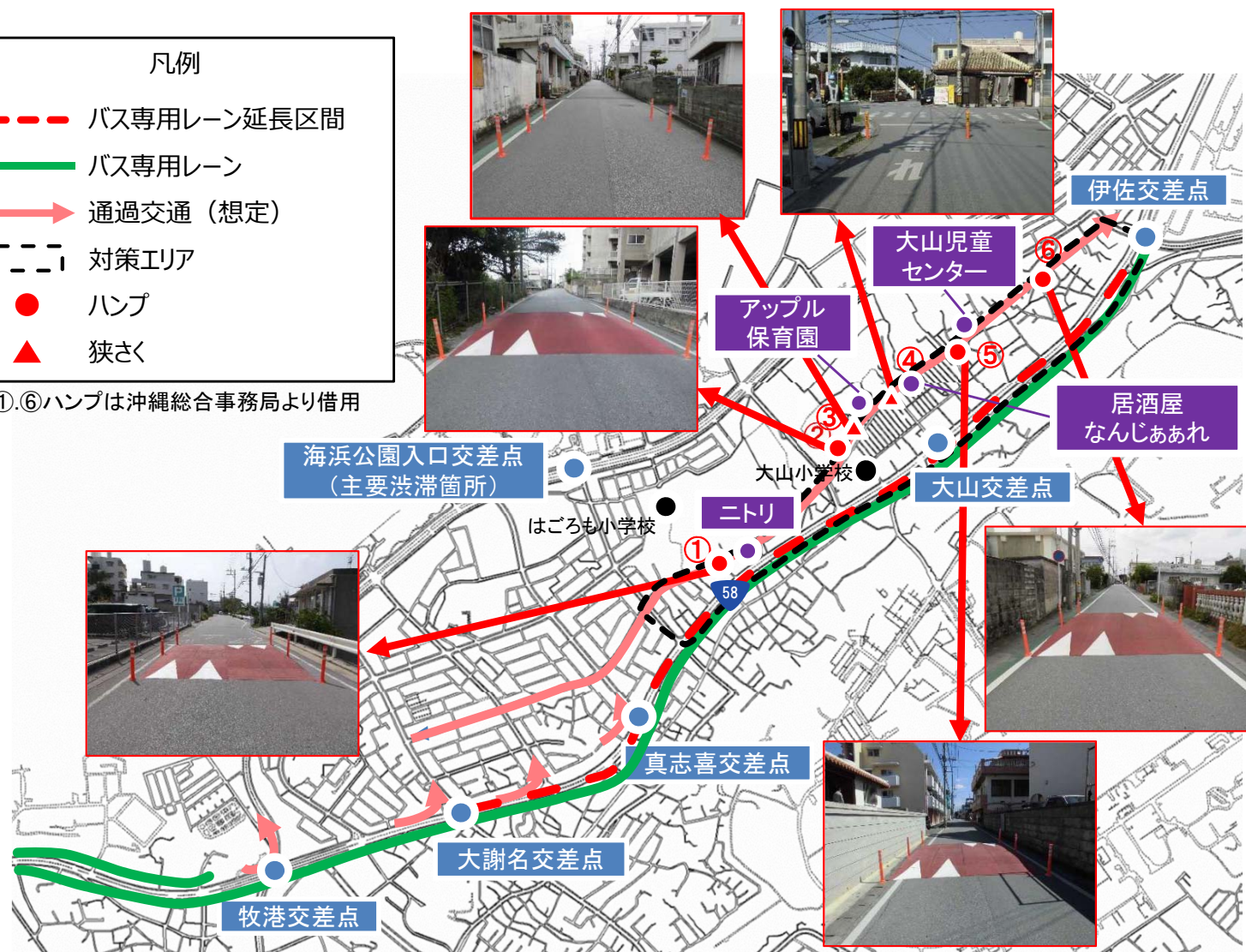
那覇市内の渋滞原因の一部として観光客のレンタカー利用によるものが一部あると言われていることから、観光客の移動手段の多様化を図る実証実験を行う



- 夕方バス専用レーン延長区間において、帰宅時のバスレーン影響を避けようとする一般車両が生活道路へ流入することが想定
- H30年度のバスレーン延長区間である大山地区において、大山小学校関係者、地域住民等と生活道路の安全対策に関する意見交換を行い、対策内容を検討
- 対策エリア出入口部及び中間部にハンプ及び狭さくを実験的に設置(H31.3～現在)。
- 令和元年度は、関係機関と調整を行い、本格設置



※①、⑥ハンプは沖縄総合事務局より借用



○ワークショップの様子(大山小学校)



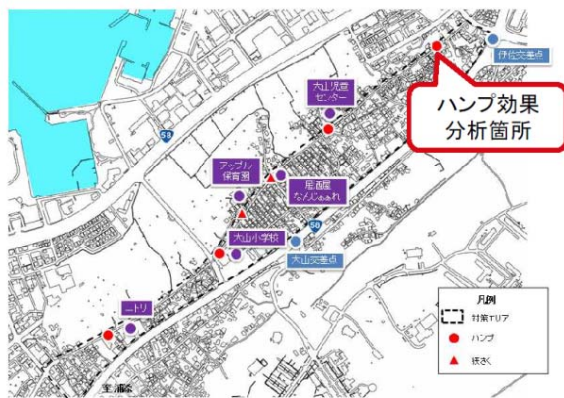
○大山小通学路安全対策説明会の様子



生活道路の交通安全対策:生活道路の交通安全対策-No.61

- 対策後は、朝タピーク時共に、バスレーン延長前、延長後より20km/h以下の割合が増加。
- またタピーク時には、対策後30km/h以上の割合も減少傾向。

- 狭く設置箇所(交差点部)では、対策後、交差点内を減速せず通過する車両が約10%減少。



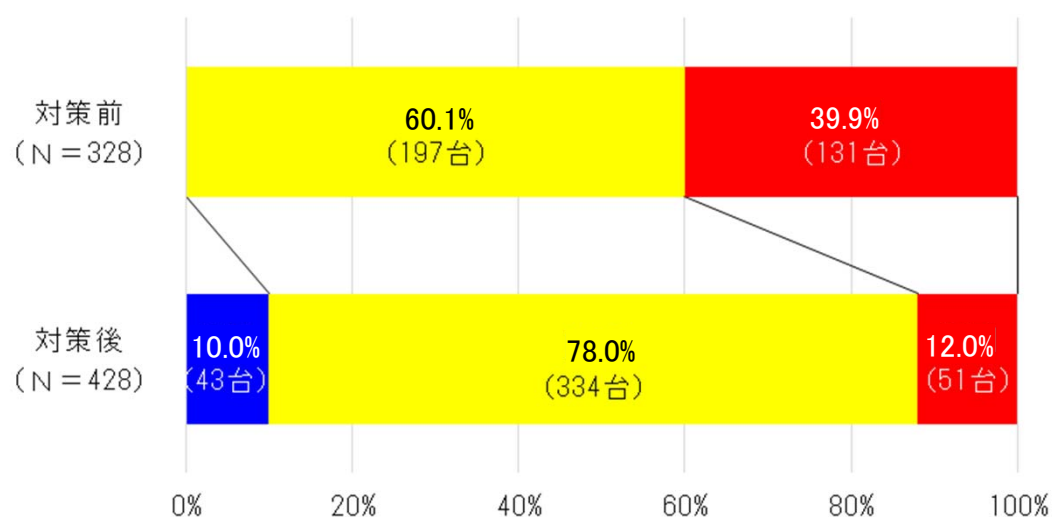
▲ハンプ設置箇所での様子



▲狭く部の車両進入の様子

タピーク時(18時台)の断面交通量及び車両速度割合の推移

■ 20km/h以下 ■ 20km/h～30km/h ■ 30km/h以上



狭く設置箇所(交差点部)における車両挙動の変化

■ 停止線で停止 ■ 交差点内部で停止 ■ 減速しながら通過 ■ 減速なしで通過

